

会 議 録

会議の名称	第5回 長瀬町小中一貫教育検討委員会
開催日時	令和7年6月25日(木)午後7時00分～午後8時45分
開催場所	長瀬町役場3階 大会議室
出席者	委員12名 教育長 事務局3名
欠席者	委員3名
会議の内容	1 開会 2 教育長あいさつ 3 議事 (1) 小中一貫教育検討に係る研修会について (2) 坂戸市と日高市への学校視察について (3) その他 4 事務連絡 5 閉会
会議の公開又は非公開	公開
非公開理由	—
傍聴人の数	3名
発言の内容	別紙「審議内容」のとおり
会議資料	・第5回長瀬町小中一貫教育検討委員会 次第 ・第5回長瀬町小中一貫教育検討委員会(説明用パワーポイント資料) ・令和6年度 長瀬町小中一貫教育研修会 ・視察資料 坂戸市城山学園・日高市小中一貫教育パンフレット
事務局	教育総務担当
会議録の作成方針	☒ 要点記録
その他の必要事項	
会議録の確定	令和7年7月14日(月)

審 議 内 容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

1 開会

2 教育長あいさつ

井深教育長（教育長あいさつ後退席）

3 議事

事務局）

それでは、次第の3の議事に入ります。

長瀬町小中一貫教育検討委員会設置条例第6条第1項の規定によりまして、議事の進行につきましては委員長となっておりますことから、委員長をお願いいたします。席の移動をお願いいたします。

委員長）

それでは私の方でこれから議事を進めさせていただきます。

委員の皆様方には、ご協力をお願いしたいと思います。

一年間を振り返ってみますと第1回の検討委員会が6月に発足しました。それで4回の検討委員会、2回のワークショップ、1回の研修会を実施して参りました。

小中一貫校を念頭に置いて昨年度は児童・生徒の減少、施設の老朽化というふうなことを踏まえて、主に施設等の整備を中心にして検討してきたかというふうに思います。で、中間報告が出来まして、今年の2月20日教育長に中間報告を提出したところです。これが昨年度の経過でございます。

今年に入りまして研修会等を行い、更には二つの地区の小中一貫校の視察がありました。それに基づきまして今回は議事1の小中一貫教育に係る研修会について、議事2の坂戸市と日高市の学校視察について、これを行って参りましたので、事務局からこの説明をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

(1) 長瀬町小中一貫教育検討に係る研修会について

(2) 坂戸市と日高市への学校視察について

(事務局から説明)

委員長）

事務局の方から研修会と2回の視察についての報告がありましたけれども、長時

間ありがとうございました。

これから委員の皆様研修会と2回の視察等を含めて、感想と小中一貫教育についてのご意見を伺えればと思います。

私も小中一貫校の視察というのは初めてで、ニュースだとか教育の記事だとかを見てはいましたけども、かなり参考になりました。特に城山学園の各学年の人数が少ないのですね。私のメモでみると小学校1年生が14人、2年生が12人、3年生が14人、4年生と5年生が9人、6年生が15人、中学1年生が18人、2年生が13人、3年生が13人と非常に規模が小さいということで、この城山学園が成り立ったのだらうというのが良く判ります。

長瀬町の将来の見通しをみると児童・生徒の数からしてみると、これはかなりモデルとなるかなと思いました。

私の感想を言ってますけれども、日高市の方はですね実は国神小学校の校長先生が今年高根北小学校から異動してきました。小中一貫校を経験しているということで、先週すこし時間を取って話をしに行ったんですけど、過渡期でまとまらないけれどもということでしたが、お話を聞いてきました。

坂戸市の場合には6地区ありそれぞれ、小学校、中学校、公民館があって、非常に地区ごとにまとまりやすかったと、基本的には施設一体型が3校、分離で小中で行っているのが3校というふうなことで、市の中でそれぞれタイプが2つの小中一貫教育を実践している。

私が行ったのは武蔵台小中学校ですけども、令和5年にスタートしているということで、まだおそらく、成果・結果というのはなかなか出てこないだろうと思います。実際、教育は長丁場ですから、卒業生がでてその感想なども含めて評価をしなければならないということですけども。何れにしても検討委員会で二つの学校を視察できたということはとてもありがたかった。市の方も一生懸命になって頂いてました。

私はその後、坂戸市の教育長が、二期だろうか、今は離れていますけれども立ち上げから検討していた方でしたので問い合わせしてみました。城山小中学校ですが、人数がとてまもなく少なくなっているんで、これから複式学級の問題も起こってくる状況はあると進んでいるけれども、複雑な人口減少がある地域だと話していました。坂戸市の場合にはかなり早くから検討をしていましたので、かなり中身が詰まってきたという感じはしました。

日高市の場合には過渡期ということですね、その様な感じがしました。

私の方で感想的なものを最初に述べさせて頂きましたが、小中一貫校というのはどうなんだろうということも含めて、難しくなくお話しして頂ければありがたいという

ふうに思います。視察に行かなかった委員の方も今日の話を聞いて率直な意見を聞かせて頂ければと思います。

それでは委員如何でしょう。

委員)

私は2回行かせて頂きましたが、最初の坂戸市の印象としては小中一貫校ということで、同じ学校で小学校と中学校があるという形ですけど、教育体制も含めて問題を抱えているところを拝見出来た部分もありましたけど、学校を卒業して社会人になってそういった教育現場というのは、社員の教育という部分では行ったことはあるのですが、私たちの子供の時はどうだったか、そして今は孫の世代になったりひ孫の世代になったり、特にどうだったか、そういうところを見て、私としては先ほど議長から話があったように、人が減っているときに今後何をして行かなければならないか、どういう考え方で教育というのはあるべきかということを考えながら小中一貫教育学校と義務教育学校それぞれ意図があるんですけど、全体的に生徒の目線、教育の目線、地域の目線、PTAの方もそうなんですけど、そういったそれぞれ違った目線が出てくるとい思いながら、小さい子供は環境に慣れるのは早いというところがありまして、ある程度一貫教育という中では小学校から中学校という時の中一ギャップとかあったと思いますが、それほどは感じられなかったというのが私の印象かなと思っていますところですよ。

義務教育学校という9年間を通して、一貫的な教育課程というのは教員の方々の問題というのはあるかもしれませんが、長瀬町に置き換えた場合に、先ほども議長からもあったように、私たちのところはそんなに人数は増えないと思うと、いろいろな考え方はあるんですけど、日本全体的な人口減少からすると都市化の流れというのがあり、こちらは過疎化への流れの中での教育体制をするのであれば、それを一体的にとらえた教育課程を進めていかなければいけないかなと思いますので、現場で教えている先生の考え方、教育を受ける子どもの体制、それと私たち関係していると、そして地域の皆様がどういうふうに関わるかというのを検討する課題に入ってくるのかなと思います。以上が感想でございます。

委員長)

ありがとうございました。

委員は今年中学校に来られて、この小中一貫校についてどのように学校現場として思ってますか。

委員)

今年からこちらへ来たんですけど、やはり中一ギャップですね。中学校の先生方をいろいろと見てですね、今年入学した生徒を見てですね、対話しているところですよ。

れども、やはり正直小学校の状況とか知らなかったりする面があるのかなと思います。小学校と中学校では時々情報交換とかしているのですが、その中で意外と知らなかったり共有できていなかったりありますので、このように物理的に同じ建物の中でいろんな人が関わって見ているので、そういうところでは問題なく中一ギャップとかですね欠席してしまったりだとか、生徒指導、教育相談の面では対応が良いのではないかなというふうに感じております。あとは先生方がどうやって一つになってというのはありますけれども、子供のことを考えると、子供たちが減っていくというのを考えると物理的に一つの小中一貫ですけど、義務教育学校と小中一貫校と二つありいろいろと考える面はありますけれども、一つになることも考えても良いのかなと感じました。

委員長)

どうもありがとうございました。どうしてもやっぱり二つの学校を見て先生方が課題で出てきたのですが、小学校の先生方の文化、中学校の先生方の文化、これはもう違うんですね。それがやはりあの一緒になってくるといって、文化の違いが最初から出てきていると、これは時間の経過と共に解消する問題なのかなと、私なんかは気にはしていないのです。当然それはお互いの領域が理解できて意思の疎通が図れて、これは解消するのだろうというふうに思っています。ただ子供たちを見ていると子供たちの柔軟性はすごいですね、生き生きしていました。挨拶もきちんと両方ともしていましたし、そういうふうな意味では怪訝することはあまりないのではないかなと、また小規模ほど中一ギャップは無いのではないかな、ある程度解消されてしまうのではないかなと、大規模校とは違って、そういうふうな意味でもやはりこれはスタートしてみて解消できるものだろうと思っています。私などはこの説明を聞いて資料を見て、長瀬町教育委員会が小中一貫校を早々と検討するのを見て、これは少子化の中で小学校の先生や中学校の先生が相互交流で小学校の高学年に体育だとか音楽だとか理科だとかそういうふうなある意味では選任的な授業ができるということで、質の向上という面からすると、ものすごくメリットがあるのだろうなというふうに思います。おそらく始めてみるとデメリットも出てくるとは思いますけれどもメリットのほうが優先してくるんじゃないかなという感じを持っています。私が感想を述べてしまうと話が進まなくなってしまうので、委員如何でしょうか。

委員)

私は坂戸市立城山学園にしか見学に行っていないんですかど、行ってみた感じ校舎は長瀬と同じようないい感じのボロさ加減であったなと思って、低学年のためにプレハブ校舎がありますと先生の方から聞いて、ええプレハブってどんなのと思いました。実際に見学して造りとかを見たら、プレハブってもっとボロいかと思っています。

たけども、結構しっかりしていて2階建てでこれがプレハブなんだろうと思うくらいの、きれいなしっかりした校舎を低学年の為にわざわざ造っているというので、そこは驚きました。それと、小中一貫になって校庭で小学生と中学生が入り乱れて危険なんじゃないかなと聞いてみたところ、特に大きな事故とか報告は受けてませんという話が先生からあって、意外と大丈夫なのかな、実際に見てみないと判らなかったなと思って、校舎の中でも時々すれ違い同じ校舎の中に小さい子もいたり大きな子もいたりそれはギョッとするとところもあったりしたのですけれど、それはそれでいいことだなと思いました。

私は学校協議会としてボランティアで学校に入る機会が多いので、今は中学校にも小学校にも入っているの、小学校にいた子が中学校に行って「オウ知っているんだ」という顔をして私のことを見てくれるとやはりうれしいですね。私たちもうれしいけど向こうも知っている人が引き続き自分たちを見守ってくれているんだなって思っているのだろうなと思いながら関わっていて、そういうのが小中一貫校になると地域の方が小学校で関わっていた人がそのまま中学生になっても校舎の中で見かけるとい、いい効果なのかなと。日高市の方は行っていないので、気になったのは制服がない、なくなった？という話を聞いて、どんな格好をして中学生は学校に来ているのだろうという実際にそれは見てみたかったなと思うので、見てきた方から話を聞いてみたいと思います。

委員長)

制服はどんなでしたか。

事務局)

制服はないです。で、通学はどうするかというと体育着で通学です。では、卒業式とか高校入試とかはどうなっているのですかとお伺いしたら、卒業する3年生は制服を廃止する段階では制服を持っているので、それを着て卒業したまでで、新たに3年生になる子たちが出てくるのでその段階で、さて、どういうものが正装かというのは判らないので、こういった形のものが正装だよというようなもの示すパターンみたいなものを提示するものを準備している。ということです。通学の時は基本的には体育着通学になっている。ただ、何かイベントというか正式な場にどういった形で登場するかというのは、制服のない代が今増えてきているので、そういったものを提示しようかなということです。

委員長)

では、また小中一貫教育についての感想等をお聞きしたいと思います。

委員、如何ですか。

委員)

私も今回ですね城山学園の方に行かせて頂きました。小中一貫ということで基本的にそこでは小学校と中学校が一緒のところに隣接でしたけれども、やはり隣接という形の中で、生徒と児童が一緒に活動していることで、先ほど意見として皆さんも仰っていましたが、上級生がいい見本になっていたり、それからまた上級生の下級生への気遣いを生活の中でだいぶされているということで、一緒に生活によるいい面が非常に出ているのではないかなというふうに思いました。なので、義務教育はちょっと日高の方は行けていないですけど、長瀬町の規模を考えると一つの施設の中でやっていくというふうに考えると心配していた点はクリアになったかなと思いました。教育の中身についても専任の教員の方が一部上級生に入ったりしている中で、よく小学校と中学校の先生が連携してやっているというふうに思いました。これもいい面だと思いました。多分それがせっかく一緒に隣接もしくは一体になっているがゆえに、いい面を出そうと工夫されて現場をやっていると思いますけど、それがさらに発展して行くかどうかでしょう。義務教育学校の方がよりやりやすさというか、もっと次の発展形に更に行くのかなと、そこは日高市に行けなかったので現場の先生や皆さんがどういうふうに仰っていたか判らないのですが、そのような想像もしています。やはり学校の中でも子供が少なくなるというのがありますし、多い少ないに関わらず、今後学校で何を勉強するか、個別の勉強というのはこれだけネットが発達した社会で、ある意味学校に行かなくても家でも十分いろんな複雑な高度教育を受けられる訳で、じゃあ学校という一つの施設の中に集った時にどういう勉強の学びの場が提供できるのかがいいかというふうに思ったりするので、私としては今回の中軸としては少なくとも、一体型の施設でより小中が融合した形で進んでいくのが、長瀬町の規模感からすればいい方に進んでいくのかなと感じました。

委員長)

どうもありがとうございました。

今、委員が仰った城山学園の場合には小中一貫型なのですが基本的には小学校、中学校なのですね、校長先生が一人というふうな形で、中はどっちかといったら義務教育学校と同じような形で進めていると、今、委員からあったように最初それでやっていたけど義務教育学校になっていくのだろうと、そういう過渡期な訳ですね、そのような感じがしました。いずれにしても城山学園の場合には既に何年か経っていますので改善されて進んでいるという感じがしました。同時にあその場合には大学が3つ見れるのですよね、小中学生は大学との交流というのがないかなと思いましたが、実際には行っているということで、いい方向に地域を巻き込んで進んでいるなという感じがしました。

委員、初日だけでしたけど感想をお願いします。

委員)

要望なんかも言っているのですか。私は城山学園に行きました。出来る時から興味があつた学校なので実際に出来てからどうなったのかなという時に、行った人たちに偉そうにここがみる視点だとよく話をしてきましたけど、それとプレハブ校舎がとってもいいなと思っていました。先ほど事務局から今までの経緯の説明がありましたけど、改めて考えると、何故、小中一貫校の検討委員会を行って、小中一貫校にしたいのかというと、その中一ギャップだとか建前はあるかもしれないけれど子供たちの現実には極端な少子化なんですよ、子供が少なくなっているということが一番の問題点で、1年間かけたらハード面ではもう耐久年数でいろいろな問題点があると、2校校舎を建て替えるのなら1校の方が良いという現実的な問題がある訳ではないですか、それで、先ほどからお話の中に教育課程に関しては、専門家の教員に任せておけば良いと思うのですよ、ただ内容は熱のある教員がどれだけいるのかというのはあるし、質問で、小学校の免許しか持っていないくて小中一貫校になった場合どうすれば良いのですか。上手に長瀬町から出てってもらえば良いことで、これは厳しいかもしれないけれども、やはり私たちは長瀬町に住んでいて子供が少なくなつて小中一貫校を造らなければいけないんだという現実をみたときに、あの城山学園をモデルとしたならば、やはり教員の熱量だと思うのです。

特に今度、校長先生になられる方がどういう方がなられるか判らないけれども、その校長先生がこういう学校を造るんだという熱を持っていれば教育課程などどうにでもなると信じている一人なんです。じゃあ私たちは今何をやるべきかということとせつかく2校見てきたので、私達がワークショップをしてどういう学校を造ってほしいという要望をこの委員会に出せようと思うのです。例えばPTA活動がどうだこうだと言っても現状は激減してきているんです。現実、横瀬町はPTA活動がなくなった訳じゃないですか。それから部活動を活性化しようじゃないかと言っても、子供が少ないのに部活動なんかできる訳がない。今年から中学校は強制的に部活動に入らなくてもいいんですよと言われました。それがどういうことかということと地域のボーイズリーグに行くとかそういう許可が出れば学校の部活行かなくてもいいですよという時代が来ている。この現実を少子化の中で見ていったときに私たちがあのハード面でこういう校舎がいいよねって私たちが言った訳ではない。あれはあくまで計画しただけで、ああゆうものを参考にして現地を見て、今度出来る学校に対してこういうコンセプトでやってほしいよねという願いを持たないと、この委員会の価値はないのかなというふうに思うので、私は早急にこの委員の人達の気持ちが熱い内に、ああゆうところを見てきたよね、こういうところを見てきたよねという内に、ワークシ

ョップでこういう要望を出していかないとだめだと思います。二小から一小へひとつの学校になって総合的な学習が一小の中で始まっていったのだけれども、面白いなと思ったのが、総合的な学習がやはり一小が作ってきたものと二小が作ってきたもので、ある学年では二小の岩田神楽を勉強しようというのが出ているという現状をみたときに、先生方はおかしなもので誰かその教員の中のリーダーシップを図る人間が、これやろうとよって言うことで流れていってしまう。だから何度も言うけど長瀬町出身の先生が少なすぎる。少ないから総合的な学習も判らないから今まで誰かのつながりでやっていることだから、ワークショップをやってやはり私たちの町、長瀬というのはこういうことを子供たちに伝えてほしいよねというのを私達が提言していかないと、このまま先生達の流れでなんら長瀬らしさというのは出てこないかと、そのようなことを強く感じた現地見学でした。

委員長)

ありがとうございました。。

委員、如何ですか。

委員)

どちらにしる教育体制というのは変わらなくて、内容次第なのかなというところでした。メリットはあったけどデメリットは特にないということでやる方が良いのかなという形でした。義務教育学校の方の普通なら6年生が卒業してリーダーになるところを工夫して6年生をリーダーにするという活動もされていて、その辺も先生方の工夫次第でどうにでもなるのかなという印象でした。先を見通した小中学校の先生で共有ができるので、先を見越した教育すごい質の高いような6年生と5年生で中学校も普通だったらその見通した内容を先生が教えてくれるので、すごく内容が濃いというか、そのような話もお伺いして良いなと思いました。武蔵台小学校の方は一年生の出入口が教室と直結してあって、中庭みたいなのがあってそこで遊んでいる先生方も多分、一年生の管理が凄くし易いというか、目に見えてそこに居るのが判るその辺も良いのかなと思いました。以上です。

委員長)

ありがとうございました。

委員、如何ですか。

委員)

私は坂戸市と日高市の両方を見学させて頂きましたけど、小中一貫と義務教育で何が違うのかなというので言えば、さほど変わらないのではないかと思いますけどどちらの先生方も校長先生と教頭先生のお話しから、とても教育に対して熱意をすごく感じられて、何を一番大事に考えなければいけないかなと思ったら、やはり子供

たちの教育に関してだと思うのですが、長瀬は町の人数が少ない、もちろん子供たちも少ないということは、小中一貫教育の一つの学校を造るということなのでこういうことにとってはとても良い環境になるのではないかと、それだけ目が届く教育が出来るといことと、情報の共有が児童・生徒もそうなんですが、教員同士の情報の共有も出来るということと、すごく人数が少ないので親御さんやお爺さん御婆さんの情報まで判るようなそういう環境もある。で、今の委員が仰ったように地域の長瀬町独自の文化という教育も、私は地元ではないのですが私たちの年代の方がどれぐらいそういう教育を受けてきたのかなというのがあるもあって、皆さんが長瀬町のいろんな素晴らしい地元の遺跡だとか何だとか沢山あるのをどれくらい知っているのか。教育をあまり受けていないんじゃないかなというのを、何方かに聞いても判らないと言われる方も結構いたので、そういうことも一つになれば小中でそういう情報を「ふるさと科」という授業を組み込んで、折角であればそういうのも教育に取込んで長瀬町の良さを、小さいうちから子供たちに教えて頂ければ良いのかなと思いました。

子供たちはそれこそ順応性があるので、どういう教育になったとしても対応できると思うのですが、教育の方々の一環で義務教育学校の方がいいなと思ったのは小学校と中学校で分けずに、そのまま一貫でという一つの情報を共有してそのまま小学校から中学校で、児童・生徒の情報を持って上がれば、お互いに共有して教育だけではなくて、子供たちの普通の細かい生活のことも目が行くのではないかとということ強く感じました。なので、いろいろ先生たちの熱意も強く感じたのですがいろいろなことが判らないという段階でまだ日高市の方は過渡期、それこそまだ実績が判らないと校長先生も仰っていましたけれどこれからどんどん出ていく。長瀬町も明日、明後日に出来るものでもないで、いいようなそういう実績等の情報は沢山取り入れて、そこから何でも長瀬町はゼロベースで、日高市の方が言われたようにゼロベースで考えればいいのかと感じました。中一ギャップということも良く言われるのですけれども、中一ギャップということもそういう一貫にしまえば少しは、まあ、メリハリがなくなると言われる方もおりますけど、その辺は教育現場の方がどういうふうに対応していかれるかというふうに感じました。

委員長)

ありがとうございました。

委員は見学に行かれていないので、小中一貫校の研修会をとおしてみても感想は如何でしょうか。

委員)

私は仕事で現地視察に行けなかったのですが、その場所には行ったことはありますけど、長瀬町と違って城山も武蔵台もその地区を町づくりで開発して住宅が

建って、その人たちのために造った学校ですのもうこれ以上増えない。頭が決まっている町なのでそこに住んでいる人が子供を産んで、その人たちのための学校であって、その子供たちが出て行った場合、もう高齢者しか残らない。その子供たちが戻ってくる状況ではないところかなと思いました。地図を見れば判りますけどちゃんとした町が出来ている。逆に長瀬町とは違う町、長瀬町は魅力のある人口が増えてもいいじゃないかという感じがするところです。まあ一応、可能性がある町として住む人間としては、町の方では増える努力をしてほしいというのが一つあります。今日の報告とかを見て思ったのが、最近、中学は私立に行く子供たちが何人かいるのですが義務教育だとか小中一貫教育となった時に、私立の受験とかそういったところとか問題が起きてしまうのかなと感じたところなんですけど、その辺も考えていかなければなと思います。自分としては長瀬町は中学校まで頑張って、あとは高校でいろんなところに行ってとか思っているんですけど、自分はスポーツ推進のほうでバスケットを教えているんですけど、小中を繋げて中学でひとつの成果を出してあげたいというところで教えていて、自分が携わったときに長瀬中の男子バスケット部は一回戦でいつも大量得点で負けている状況だったのでそれは悔しいなというので、10年位かけてここ4年位で優勝はできないんですけどミニバスも中学も秩父で2位までいっています。ミニバス2位までを3回、中学も今年の学生も含めて2位になっているので、学校とは違うんですけど、一応、小学校から中学校まででカリキュラムではないんですけど、教えることを中学の先生と協力して子供たちの笑顔を、最後で見せてあげたいというのをずっと思ってやっているんで、勉強の方もですね小学校から中学校が一つになれるような感じになるのが理想かなと思っています。

委員長)

ありがとうございました。

委員にも感想を聞かせて下さい。

委員)

私も体調と仕事の都合で視察の方には行けなかったんですけども、今、皆さんからのお話を聞きまして報告の方も聞いた内容について考えて、やはり今感じることは長瀬町が置かれている立場、子供たちの減少が進んでいるということで小中一貫教育を進めようということで、この会合は始まっているわけなんですけれども、やはりいろんな坂戸市、日高市の例を見ても小中一貫校と義務教育とは先生方の意見を聞いても、さほど差はないという話もありましたけれども、なかなか小中一貫が良いのか、義務教育学校が良いのかというのはなかなか難しいことだと思うんですけど、今、長瀬町の現状に合った形で小中一貫にするということを進めて、その中で人数が減ってくる増えてくるという形の中で柔軟に義務教育学校の話も先に進んでいくで

しょうし、小中一貫の同じ建物の中での教育というどちらが今の長瀬町に相応しいのかというのを考えていく、柔軟に考えていく必要が更にあるのかなというのを感じました。なかなか難しい問題ではあると思うんですけど、当然子供たちの人数は減ってくれば義務教育学校というのが理想となってくると思いますし、今の現状の二つの小学校、中学校があるということで、3つの組織があり小学校は一つの組織になりましたけれども小学校と中学校の二つの組織がまとまることによって、先ほど言った弊害というのはないんですけど、小学校の文化、中学校の文化というのを、なかなか馴染ませるっていうのは最初は大変かもしれないですけど子供たちというのは意外と皆さんが言うように対応能力が早いのでその辺は心配いらないかなと私も気がしています。あとはもう本当にどちらを選択していくのかな、というのをこれから精査して長瀬町あった形になっていけば良いのかなというふうに思います。以上です。

委員長)

ありがとうございました。

先ほど、委員が団地の中で出来たという話がありましたが、なるほどなと思ったのは鳩山町も団地ですよ、あそこは今限界集落に近い形になっているのですね県の教育委員会があそこに鳩山高校というとても良い学校を造ったのですが、今はまだあるのですか？最初はかなりレベルの高い高等学校でスタートしたのですけれども少子化というので子供たちが居なくなるとなると、高等学校までこういうふうになっているということで、長瀬町の場合には団地とは違いますから、委員が言われたように特色あるものが出来るのかなというそんな感じの持続性のある学校ですよ、するのかなという感じを持ちました。

日曜日にある小中校の管理職の会、私の方で顧問をしているのですが出させて頂いて、長瀬町の教育長が講演したのですね、ある意味では私的な講演なのですが、100名くらい集まっている中でお話をして、長瀬町は小中一貫教育検討委員会で進めているというふうなことで恐らく各自治体は知っているというふうに思うのですが管理職だとかあるいは主幹教諭までは知らなかった面があるようなんですね、だからそういう意味では長瀬町が小中一貫教育の先進的な自治体として地区内には浸透しているというところになっているかと思います。それではさらに意見を聞いてみたいと思います。

委員、如何ですか。

委員)

私もですね坂戸市の方しかお邪魔できなかったもので、そちらの話が感想としてでてるんですけど、非常に良い学校だなという感じが致しました。地区的には坂戸市

といいながらもかなり隔絶した地域だったので事情としては長瀬町によく似ているなという感じはしました。特に学校の印象としますと子供たちも明るいですし穏やかで仲の良い学校というイメージが非常に強く感じて、特にですね他地域からわざわざ遠隔地から迎える親御さんが連れてくる通学の方もいらっしゃる。そういった特殊なその教育方針を持っておやりになっているということで、先程も話が出ていましたけれど校長先生がどういうことをやりたいか、ということに関して強い意志というかそういったものが、その中に十分反映されているなという感じがしました。ですね、やはり地域が大事にしているなと非常に強く感じました。地域のご高齢の皆さんが学校の清掃活動であったり、植栽だったり一生懸命にして頂いて非常に印象に残っていて、実際に掃除されていたり花の手入れをされている方がいらっしゃったので、本当に良い学校だなという感じが強くしました。

私の小中一貫もしくは義務教育化ということに関しての意見ですけど、私もあまり教育に詳しい訳ではないので、義務教育と一貫教育とどう違うのだろうというのが常々完全に理解しきれていないような気がして、その時に教育委員会の方だと思うのですがお話を伺ったのですね、その時に義務教育と一貫教育の差というのが何なのか実際に子供さんを教育するのに特に大きな差はないですということで義務教育化することで教育していく側の教員の皆さんの縛りがいろいろと出てくるのでなかなか大変じゃないか。ですから将来的に義務教育化する必要性があるかというのは時間を置いても特に差し支えない。一貫教育をしていくということで進めていくことで特に大きな問題は、子供さんの方には少なくともないだろうという印象を強く持ちました。特に坂戸の話の中で4年、3年、2年という教育の節目を分けている。児童と生徒という括りはあるわけですけど、その間での教育の在り方というか、方向性の変換としてはやはり4年生と5年6年中学1年生、それから受験を迎えた中学2年3年が立ち位置にいる子供さんたちの教育に仕方がおのずと違ってくることに對しての対応が出来るとということが素晴らしいという感じがしました。私の印象としてはそのくらいです。詳しいことは専門の方に任せます。

委員長)

ありがとうございました。

委員、如何ですか。

委員)

私も仕事の都合で両方とも行けなかったのですが、そのような立場でお話しするのはどうなのかなと思いますけれども、話を聞いている中でこれからどういうふうに進めるかというような、現状の体制というのがあります。それと、小中一貫校と義務教育学校の3択なのかなという話で進めている中で、現状の体制はもうなしと

というような雰囲気を感じているのですが、そういった中で小中一貫校なのか義務教育校なのかという選択、二択しかないのかなというような内容と私は認識している。その中で今すぐどちらにというのはなかなか決められないことだと思うんですけども、まあ小中一貫教育と言いながらも義務教育の中もシステムの一つだと思います。そういう中で長瀬町の現状を踏まえると、これから教育体制に踏み出す一歩としてはいきなり義務教育学校よりも小中一貫教育をステップとして更に先に義務教育学校というのがあるのかなというふうに感じております。どちらが良いかというのは私には判りませんし教育委員会の方か先生方にその辺はもっと揉んでもらえれば良いのかなと思っている次第です。

委員長)

ありがとうございます。

他にご意見ございますか。皆さんからの感想等を含めて大体言って頂いたんですが、先ほど途中で先生のワーキングの話がありましたけれども、場合によっては教育委員会と相談をして、たたき台のですねそういうふうな委員の中で何人かを選出してですね骨子を作れば良いかなと思っています。また、その辺のところは進めていきたいと思しますので宜しくお願いしたいと思います。

それから皆さんの意見を聞いてて思ったのですが、今、秩父地区内の教員の人事異動というのは北部全体で入ってきているのですか。秩父地区内で動いているのか。

事務局)

全体として主には北部の中で動いております、大体この長瀬地域になると長瀬から1市4町の異動が比較的多い。ただ、教員不足ということもあるので例えば北部圏内の熊谷までなのですが、深谷だとか本庄から秩父のほうに通われている方はいるということになっております。

委員長)

はい、ありがとうございます。

何故、このような発言をしたかという、恐らく坂戸であるとか日高は市全体が小中一貫校で進めているのですよね。で、坂戸や日高も聞いてみたら人事異動はほとんど市内、学校数が多いですから、その中で廻っているというふうなことで、恐らく小中一貫校を経験した先生方が廻ってきますから恐らく前の状況を反省も含めて新たな学校で、それを反省して積み上げていくというふうなことで、加速度的に良くなっていくのだろうと、要するに先生方の意識が高くなるということです。秩父地区内でも異動が行われているとなると長瀬だけだということになってくると、なかなか進歩がないかな。早くほかの自治体もそういう検討が進まないかなというふうには

思っているところなんです。日高が6地区で全部その中で異動しているということを聞いたので、これは時間と共に小中一貫が加速度的に質が良くなるなというふうには思いました。それは感想の一つです。

それではその他にご意見がなければ、これで議事は終了したいと思います。

本日の議事長の任を解かして頂きます。ご協力ありがとうございました。

事務局)

本日もお熱い議論、ありがとうございました。

4 事務連絡

事務局)

次回の委員会につきましては先ほど委員からもご意見ありましたことも考えながら決めさせて頂きたいと思います。日時が決まりましたら日程調整取らせて頂いて早めにご連絡できたらいいなと思っておりますので、宜しくお願い致します。

委員)

だいたい方向性はいつ頃というのはありますか。

事務局)

現段階ではないのですが、ご提案頂いた内容とともありますので、内部で検討させて頂いて改めて日程調整させて頂ければということで宜しいでしょうか。

5 閉会

事務局)

それでは以上をもちまして第5回小中一貫教育検討委員会を閉会とさせて頂きます。本日はまことにありがとうございました。